毘沙門天像

毘沙門天は、鎧を身につけた姿で、仏法を護持し悪人や侵入者を退散させる存在として表現される。東西南北4つの方角を守護する四天王の一人であり、毘沙門天は北の方角を司っている。高さ123cmのヒノキの一材のこの像は、1078年に国家の安穩、万民の豊樂、寺門の繁栄を祈る法会の本尊として、吉祥天と共に制作された。毘沙門天が右手に小さなストゥーパ（宝塔）を持っている。また、衣服と鎧の細部の表現にも注目されたい。ここには平安時代（794～1185年）の美意識が表現されている。この像は幸運の女神である吉祥天とペアになっている。